1950-2020 ANNIVERSARY

Seki Gocoro

2020 02
No.1708

SEKI
広報せき

巻頭特集 大人への第一歩

関心
Seki Gocoro 02

SEKI City Community Magazine

TOPICS

パブリックコメント募集……9P
確定申告がはじまります…14-17P
INFORMATION……20-30P
子育てカレンダー……33P

大人への第一歩

夢や希望を胸に、大人としての第一歩を踏み出す20歳。今月号の特集では、新しい門出を迎え、輝かしい花を咲かせようとしている「ハタチのきもち」をお伝えします。

今年も、市内の各地域で成人式が行われました。仲間や恩師との再会を喜びながら、凛とした姿で式に臨む成人たちは、晴れやかで、未来へ羽ばたこうとする決意に満ち溢れていました。

Congratulations!

1,022人※が成人を迎え、希望あふれる未来へ羽ばたく

※案内状送付者数（令和2年1月6日現在）

成人式の豆知識

成人式のルーツは、終戦間もない1946年、埼玉県の蕨町（現：蕨市）で行われた「青年祭」といわれています。戦争によって誰もが心に傷を負う中で、未来を担う若者たちに希望を持ってもらうために、青年団により企画されたものです。これがやがて全国に広がり、国が1948年に1月15日を成人の日に制定。2000年に法律の改正により、1月の第2月曜日が成人の日となっています。

関地域の実行委員のみなさん

みんなが一生に一度の思い出づくりをできるよう、そして大人として自覚を持って未来へ向かう節目の式となるよう、新成人が実行委員となり、打ち合わせを重ねて開催されています。

関市育ちの

What do you think?

ハタチのきもち

関市で育った成人が、それぞれの未来へ向かっていきます。
「ハタチ」となった今の自分が抱く「きもち」を聞きました。

チャレンジしていく自分へ

長谷部（はせべ） 安美（あみ）さん（会社員）

これまで私を支えてくれた両親に、感謝の気持ちでいっぱいです。特に、進路について悩んでいた時には、私の性格を理解して親身に相談に乗ってくれました。今の自分があるのは、その時のサポートのおかげだと思っています。

成人という節目をきっかけに、控えめな自分から脱却して、新しいことに積極的にチャレンジできる大人になりたいです。

母校、日本一を目指して

山田（やまだ） 彪博（たけひろ）さん（大学生）

高校時代にお世話になった恩師に憧れているので、将来は、恩師のように勉強や部活を熱心に指導し、生徒からも信頼される先生になって、母校の関商工で働きたいです。

関商工は、様々なことを学べる環境が整った学校で、とても貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。いつの日か関商工の校長となり、市民からも愛される日本一の高校にすることが大きな夢です。

関の魅力、写真から

佐藤（さとう） 健斗（けんと）さん（専門学生）

写真に魅了され、カメラを専門に勉強しています。将来は、人の心を震わせる写真を撮影できる写真家になりたいです。

現在は名古屋在住で、春からは東京で仕事を始めるため、地元を離れることになりますが、関市が世界に誇る刀鍛冶をこれからも撮り続けたいですし、いつかは展示会を開催して、多くの人に自分の写真を見てもらいたいですね。これからも、ファインダーを通して発見した関市のいいところを、写真で発信し続けたいです。

成人と責任

澤田 來威（さわだ らい）さん（会社員）

この前まで学生だったのが、社会人となり、そしていよいよ成人を迎え大人の仲間入りをすると思うと、身が引き締まる思いです。学生の頃は、何でも先生に教えていただけましたが、社会人になってからは、自分で考え行動する必要があります。成人になることは、自分の成すことに責任を持つことだと思います。

これからは、成人としての自覚を持って、少しずつでも経験を積みながら成長していきたいです。

若者が来たいと思うまちに

後藤（ごとう） 早穂（さほ）さん（大学生）

将来を色々考えながら日々模索しているので、やりたいことを見つけてどんどん進んでいく兄に憧れを感じます。関市に若者たちが来てくれるような「まちおこし」がしたいという兄の思いに共感して、自分にも何かできないか考えています。

名古屋に住んでいると、関市より便利さを感じることもありますが、やっぱり関市が好きなのでいつか戻ってきたいです。そして、若者が来てくれるきっかけをつくる仕事ができたら面白いなと思います。

子育ての力に

波頭（はとう） 香穂（かほ）さん（大学生）

将来は、保育園や幼稚園の先生になりたいです。都会と比べると、関市は公園やグラウンドがたくさんあるし、保育園などはとても広くていいなと思います。子どもたちが安心して遊べる環境が整っていると、お母さんたちも気軽に集まれ、相談し合える場ができるので、素晴らしいことだと感じます。

自分を育ててくれた関市で、先生となって働くことができたら幸せだなと思います。

心を広く

渡邊（わたなべ） 美奈（みな）さん（会社員）

学生の頃に比べ、社会人になってからは、時間に追われ、様々なスキルを求められる場面が増えたと感じています。成人を機に、物事に対する考えや姿勢を見つめ直して、いつでも広い心と余裕を持って取り組んでいけるようになりたいです。

関市は、子どものころから山や川などの自然が身近にあり、のびのびと生きられるところなので、こんな素敵なまちがいつまでも続いてほしいなと思います。